

第5回銚子市行財政改革審議会 会議録

日 時：平成25年12月18日（水）午後4時～午後6時30分

場 所：全員協議会室

出席者：委 員 伊永委員、土居委員、加瀬委員、西田委員、吉田委員

オブザーバー 構想日本：伊藤総括ディレクター

銚子市 越川市長 島田副市長 原田参与

宮澤財政課長、長谷川課長補佐、道下主査

佐久間税務課長補佐、柴課長補佐

石井総務課長、鈴木主査

城之内病院対策監、林病院再生室長、安藤室長補佐、谷杉室長補佐、

大川主査、八角主査、小池主任主事

事務局 渡辺行政改革推進監、鴨作行政改革推進室長補佐、古澤主査、小保方主査

傍聴者 市議会議員11名、市民26名 ほか報道各社

1 開会

伊永会長（議長）

皆さん、お忙しいところ、ご苦勞様です。

定刻となりましたので、ただいまから第5回銚子市行財政改革審議会を開催します。

（傍聴者に対する注意事項説明）

2 議事

伊永会長

早速でございますが、本日の1つ目の議題から入りたいと思います。

本日は、議員の方々も満席でございますし、報道陣もマスメディアも満席、傍聴席も満席ございまして、大変緊張感のある審議会になるのではないかと考えております。

大変ふつつかな進行役でございますが、どうぞよろしくお願いします。

1つ目の議題から入らせていただきたいと思います。お手元の資料をご覧いただきたいと思いますが、「平成25年度の決算見込への対策について」ということで、前回、前々回からずっとこの問題を取り上げております。ご承知の方も多いと思いますが、掻い摘んで経緯だけ、今日は傍聴の方々が多いものですから、簡単にご説明いたしますと、第1回の審議会を

10月2日に開催いたしまして、その日のうちに、25年度予算の執行を5%の割合で留保していただきたいという第1次答申を出させていただきました。第2回の会議で、その結果を確認いたしましたところ、当初は6億2,000万円くらいの赤字が見込まれていたものが、予算の執行留保によりまして、ほぼ解消できるという見通しが立ったのですが、今後、補正を要する予算も4億円、5億円と出てまいりまして、残念ながら、現時点では、銚子市の平成25年度の決算見込では、4億円の赤字になりそうだというような経過をご説明いただいております。それに対しまして、この審議会の委員5人全員の一致したところは、赤字は何として回避しなければならないというところでございまして、そのために手立てを第3回目、第4回目とお伺いしてまいりました。1つは、土地を何とか売却できないかと、銚子市の資産である土地ですが、この際売却して赤字の補てんに使えないかと。それから、税収を、もっともっと未収金の回収率を上げられないかということで、これも税務課長さんに大変頑張ってもらっている様子が伝わってまいりましたが、さらに大きく伸ばしていただきたい。さらには、今日の集中審議の一番の話題になりますが、銚子市立病院から5億円程度の補正要求が出されておりますが、これを圧縮できないか、あるいは、他のやり方は何かないのかということで、今までこの3点、4億円の赤字を埋める手立てとしてご相談してまいりました。途中の経過で、人件費を考えた経緯もあったのですが、人件費については、人件費削減となりますと、銚子市が破綻したのと同じようなことになりかねないということもありまして、このたびは人件費削減はできるだけ避けたいということでございます。本日、第5回目になりましたが、引き続き25年度決算見込に対してどのように進捗してきたか、4億円の赤字がどうすればゼロに持って行けるのか、あるいはプラスに持って行けるのか、その辺の見込みを当局からお伺いしたいと思っております。

初めに、全体の状況をご説明いただけませんか。

財政課長

今、伊永会長がおっしゃったように、執行停止を掛けた後に決算見込みを取った結果、約4億600万円の赤字になるということを第3回の時に話しましたが、その後に税務課の方から、税の収支見込みが、その時のものより約6,000万円ほどアップが見込まれるということでしたので、それを差し引きますと、約3億4,000万円の赤字がまだ見込まれます。その後に、まだ

12月議会が行われておりますが、病院再生に係るものが約3,000万円ほどプラス補正をしており、その時点では見込んでおりませんでしたので、歳出の方に加わります。そうしますと、今、約3億4,000万円だったものが、3,000万円プラスになって、約3億7,000万円ほどの赤字が今の段階では見込まれているような状況です。当然、これには、土地の売り払いの見込み分については、収入には含まれておりません。事務を今、進めておりますから、土地が売ればその差は小さくなると思いますが、今の段階では、はっきりした数字は申し上げられないというのが実情です。

伊永会長

ありがとうございます。それでは、順次、進捗状況をお伺いしていきたいと思いますと思いますが、まず最初に、市有地の売却状況につきましてご説明いただけますでしょうか。

総務課長

総務課で所管しております市有地の売払いの状況につきまして、ご説明いたします。現在、総務課所管の市有地につきましては、市のホームページに3件の物件を掲載しております、売払いの事務を進めております。3件と申しますのは、長崎町、小浜町、三崎町1丁目の3箇所ということになります。

このうち長崎町の国民宿舎犬吠ホテルの跡地につきましては、これまでも説明があったかと思いますが、10月に公募抽選の方式で売却を進めましたが、残念ながら応募がございませんでした。その後、11月15日から、先着申込者に売り払う随時募集の方式に切り替えまして再公募をしているところでございます。現在までのところ、開発業者などから相談や問合せが数件ございますが、正式な申し込みはないといった状況です。

次に、小浜町の市有地につきましては、準備が整いましたので、今週の月曜日、16日から公募を開始いたしました。今月27日までの申込期間としまして公募抽選で売払いをする予定となっております。こちらは、面積が527.26㎡、価格が390万1千円ほどです。

それからもう1件が、三崎町1丁目の市有地ですが、こちらは一部公図の不整合などがありまして、境界の確認が遅れましたので、事務がちょっと遅れております。こちらはこれから地積測量を行いまして、その後不動産鑑定評価を経て価格を決定して売却手続きに進むということになるかと思っております。こちらの方は、面積が556.06㎡、価格はおそらく1千万円ち

よつとになるかなと思っております。

なお、これら以外の物件につきましても、その後、売却ですとか賃貸借の申込み、あるいは相談などが寄せられているものがありますので、順次事務を進めていきたいと考えております。

伊永会長

ありがとうございました。総務課長さんに1つ教えていただきたいのですが、長崎町の国民宿舎の跡地が値頃感からいっても一番ありがたいのですが、できればこの土地で、4億円近い金額のうち1億円くらいが何とかならないかなというのが誰もが考えるところなのですが、この長崎町の土地ですね。私はまったくの素人なのですが、行ってみました。更地にきれいになっていて、2,700坪くらいの立派な土地であるということはよくわかりましたが、あの土地を、どういうふうに具体的に利用をする人に売ろうとしているのか、その辺りを教えていただけませんか。

総務課長

問合せ等で、話のあった方などに伺ってみますと、高級宿泊施設ですとか、あとは高齢者向けの施設、そういったものを考えているというお話は伺っております。

伊永会長

一括で売ろうとすると、そういうものになるような気がしますが、売るのが早めたいとすると、やはり民間の宅地のようなものが一番早いような気がしますが、例えば、あそこにちゃんと区画整理して、道路を入れてインフラを整えて、多分30区画くらいで、600万円、700万円というような物件にして売れば、売れるような気は、素人考えではするのですが、その場合に、国定公園になっていることが非常に制約になるような気がするのですが、その辺りご説明いただけますか。

総務課長

基本的には、そういった分譲地等に造成を目的とする場合は、ひとつの区画が1,000㎡以上であること、といった規制等もありますので、なかなかそういった宅地分譲という形では難しいのかなと考えております。

伊永会長

ということは、今はもう1,000㎡以上と言いますか、一括で買ってくれる人を想定しているということですね。

総務課長	<p>当然、分割ということも考えられなくはないかとは思いますが、その場合、やはり水道ですとか進入路等の設備投資が必要になってしまいますので、例えば今年度中にそれを間に合わせるというのは現実的には難しいかとは思います。</p>
伊永会長	<p>そういう方針を決められていることを否定する訳ではないのですが、やはり買う側の気持ちに本当になっているのかなというところを一番疑問に感じますので、その辺、今後ともよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>土地の問題は、今のところ見通し暗いという理解でよろしいですか。</p>
総務課長	<p>問合せ等もいただいておりますけど、現地を視察されて、こちらの方にお見えになりまして、そういった相談等をされている方もおりますので、もうしばらく今の状況で見守っていく必要があるかなと考えております。</p>
伊永会長	<p>わかりました。それでは次に、税金の未収金対策について、税務課長さん、一通り聞いてから委員の先生方に、またいい知恵をお借りしたいと思っております。</p>
税務課長補佐	<p>(別紙資料により未収金の状況等について説明)</p>
伊永会長	<p>ありがとうございました。いろいろ努力されている様子はよくわかりました。申し訳ないのですが、毎回、この審議会のたびに進捗状況は教えていただければと思っております。</p> <p>今、ご説明いただいた中で、市税にしても、保育所の運営費とか、国民健康保険料とか様々ありますが、大物はその辺り。保育所運営費の負担金がちゃんと取れていないというのはどういうことなのでしょうか。</p>
税務課長補佐	<p>こちらにつきましては、税務課ではアドバイスを含めてヒアリングをしておりますが、根本には、福祉関係の方では強制執行に踏み切りにくいというのが根底にあると思います。ただし、方法としては色々ありますので、今まで回収できていないというのは、いくつか転出してしまったもの、追いかけていけないということは聞いておりますが。ただ、現在、対策といたしましては、従前は、滞納者から、児童手当からいわゆる相殺ですね、児童</p>

手当からの徴収について、同意が必要ですので滞納者から申出書を頂いて児童手当から相殺していたのですが、この1月からは、新旧含めたすべての保護者について、将来滞納になった時のためにあらかじめ、その場合には児童手当から徴収しますという申出書を徴取するようにしましたので、これによってある程度改善できるかなと思っています。

伊永会長

わかりました。特に、国民健康保険料の徴収率が実績も見込みも低いのですが、これはこれで難しいところが多いのですか。

税務課長補佐

難しいとは聞いておりますが、私の方で具体的にその実務にかかっている訳ではございませんので責任を持った回答ができないのですが、ただ、今回、今まで躊躇してきた滞納処分、差押えに踏み切りましたので、大体その段階までに数多くの財産調査を経て、適したものだけ差押えに踏み切る訳です。この間で、財産調査の内容で、財産があるのかないのかという、要は払えるのか払えないのか、そういう原因も明らかになっていると思いますので、今後については大きく期待したいところです。

伊永会長

わかりました。市税も88%と言わず、90%、95%を目指していただくことをお願いしたいと思います。税金関係、時間限られておりますので、大変努力されている様子は伝わってまいりました。

この後、平成23年度に赤字に転落した町の説明も事務局の方からしていただきますが、その前に、ちょっと病院の方を簡単をお願いをしておきたい。さっきの税務の未収金は4億円近い金額の内、どうしても2億円くらいは目標にさせていただきたいと思っておりますので、目標金額、是非ご理解いただけたらと思っております。4億円のうち1億円くらいは病院に色々考えていただきたいということで、今までにも、圧縮していただきたいということを申し上げましたが、銚子市民の多くがと申しましょうか、市役所の予算の方は、普通の業務はかなり絞り込んで、もうお粥^{すず}を啜っているような予算の状況になりつつあるのではないかというふうに私どもは見ております。然るに、今から10年ほど前に、塩川財務大臣がよい例えをされたのですが、母屋はお粥を啜っている、いわゆる一般会計はお粥を啜っているのに、特別会計はすき焼きを食っているじゃないか、というような表現をして国の特別会計を揶揄^{やゆ}された昔の記憶がございます。私は、この市

役所全体の予算と病院の予算の関係がそれに近いような気がしてならないのですが、一般会計の方は今までも随分節約をして頑張ってきていただいている。にもかかわらず、一度、潰してしまった病院を再生するということは非常に大変なことだということはもちろん理解できるのですが、それにしても、現在は、病院の状況というのは、お粥を食べているのではなくて、すき焼きどころか毎日ビーフステーキを食べているようなイメージを市民の方が持っているような感じがいたします。そうなってはいけない訳でして、その辺りを是非予算を絞り込んでいただきたいということを、第4回でも申し上げたのですが、いかがでしょうか。1箇月ほど経過しましたが、絞り込みはうまくいきましたでしょうか。ご答弁いただけますか。

病院再生室長

今日お配りしました資料の1ページを見ていただきますと、以前お話ししました決算見込みとは別に、再生機構の方の努力等によりまして、4,237万1千円という当初の見込額からさらに減額できる決算見込みの提出を受けました。

伊永会長

わかりました。ご努力が進んでいるということで、後で病院については集中的にお伺いしたいと思います。

ただいま、土地の問題、それから税金、保険料の問題、そして病院の問題、この3点につきまして、進捗状況をご報告いただきましたが、委員の先生方で、何か質問、ご意見等ありましたらお願いします。

加瀬副会長

ご説明いただいた中から、2点ほどお聞きしたいと思うのですが、先程の土地の売却についてなのですが、長崎の件についてはお話をいただいたのですが、マリーナの方が、前回の時も進行しているんだと、いろいろ水面下でお話が進んでいるんだということを伺ったのですが、これについてご説明がなかったように思うのですが、これについて1点。

そしてもう1つ、ふるさと納税については職員向けにいろいろお話をされたようなのですが、外部向けについてどういうふうに対応されていて、少しでも収入状況が上がっているのか、この2点についてお聞きしたい。

市長

大学の土地につきましては、交渉相手先であります千葉科学大学さんの本部であります加計学園さんと今協議をしている最中でありますので、な

るべく早急にまとめたいと思っております。また、分筆、鑑定等の作業についても進めているところであります。

財政課長

ふるさと納税の件については、職員向けには周知徹底を図るということで12月のボーナスに合わせた形で、例年よりかなり多くの寄付を頂いているところです。それ以外については、現在チラシを作り、周知を図ろうとしていることと、クレジットカードで納付ができないか検討を進めている最中でございます。

加瀬副会長

ありがとうございます。1つだけお願いがあるのですが、マリーナの後背地の問題のほかに、千葉科学大学さんには無償貸与をされている分があると思うのです、この土地以外にですね。銚子市がこういう状況になってしまったということの一端の中に、実は科学大学さんに対する補助金等のこともありますので、可能であれば、後出しジャンケンみたいで本当に申し訳ないのですが、無償貸与の部分については、しっかりと同様な値段で購入していただけるような交渉を進めていただければありがたいなと思っておりますので、市長さんよろしくお願ひしたいと思ひます。

伊永会長

よろしいでしょうか。他にご意見は。

構想日本 伊藤氏

徴収のところで事実関係確認させていただきたいのですが、今ここに出ている徴収、収納しているもので、民間委託しているものはありますか。

税務課長補佐

民間委託は私の把握しているところでは水道料金がこれにあたります。あと水道料金と抱き合わせで下水道料金もこれに含まれています、使用料の方は。

構想日本 伊藤氏

ご承知のとおりと言うか、市税については、なかなか今どこまでできるかというところがですね、どこの自治体でもないながらやっていると思うのですが、実績だけ見ていくと、コールセンターをつけていくことによって20%徴収が上がってという実績もありますので、これは今年度すぐというよりは、中長期的にそういったことは検討の余地に入ってくるのではないかなと思ひますけど、これからそういった機運はありますでしょうか。

税務課長補佐

コールセンターにつきましては、以前、23年度から24年度に、訪問徴収、今回の特別な応援徴収ではなく、集金というかそういう形の訪問徴収を古くからやっていたものを廃止しましたので、基本的に税の方は自主納付に切り換えていくということで、当然のことだったのですが、その関係で、切り換え期に、24年度からもう訪問はしませんのでご自分でお願ひしますという感じなのですね。その時に、23年度に切り換えの狭間でそういうお願いを市民に対してしまして、なおかつ、電話催告という形で、コールセンターというほどではない内部ですが、電話催告の方に比較的集中して行った時期はあります。その時には、それなりに実績はあります。やはり、なにがしかのアクションをかけると応答がありますので。ただ、それを続けていると、結局同じことになってしまいますので、その時はある程度の成果は上がりました。ですから、今後検討の余地はない訳ではありませんが、一応試行錯誤的にやってみた形では、それよりも他に今はやる必要があるという判断で、とりあえずそれは続行しませんでした。

構想日本 伊藤氏

これは、全国的な流れとしても今おっしゃったとおりのことではあります。市税であったり国保税については、民間でどこまでできるか、もともと公権力の行使にあたるので完全に督促までできないという判断もあって、今、現実的に行われているのは、コールセンターにして、そこを民間事業者が行って、今、未納しているので、是非期日までに支払ってくださいと、督促に近いところまではできるという判断の中でやられているのですが、そういうところについて、民間事業・サービサーは、かなりのノウハウを持っていて、私の知っているところでも、毎年同じことをやってもだんだん徴収率が下がってくるので、どういうポイントで、どういうターゲットに対してというところまで民間事業者のノウハウはかなり出てきていると思いますので、今年度という話でなくて、今後の徴収率の向上のためには検討される余地はあるのではないかと思います。

伊永会長

ありがとうございました。またご検討お願いします。

それでは、一応、決算見込みへの対策についてのご説明の最後に、平成23年度に赤字に陥ってそれが復活した事例がいくつかありますので、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局

(別紙資料により泉佐野市の取組み状況等について説明)

伊永会長

ありがとうございました。参考にできるところがあるかにと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

時間も限られてますので、また後でご意見ありましたらお願いします。

それでは、最初の議題、25年度決算見込みへの対策ということにつきましては、本日は以上とさせていただきます。

次に、2番目の議題でございますが、「平成25年度銚子市事業仕分けの実施について」ということで、ご説明をお願いします。

行政改革推進監

(別紙資料により平成25年度銚子市事業仕分けについて説明)

伊永会長

ありがとうございました。時間が足りなくて申し訳ありませんが、以上のようなことで進めております。それから、先程のペーパーの一部抜粋の次にご参考までに付けておりますのが、今回は仕分けの対象から外した事業ですが、100万円以下のものを知りたいというような委員の声がありまして、ここに整理していただきました。またゆっくり見ていただければと思いますが、私の方から1つだけ気を付けていただきたいのは、100万円以下といえども、やはり長くずっと出し続けているということがありますと、どうしても既得権益化してしまいます。それは決して銚子市にとって好ましいことではありませんので、サンセットと言うのですが、3年とか5年で常に見直しをかけていくというようなことを、100万円以下についても是非財政課の方は注意していただけたらと思っております。財政課長さん、よろしくお願いいたします。

あと、もう1つこの事業仕分けについて委員の方から意見がございました。それは、事業そのものを仕分けるのはいいのだけど、それだけでは片手落ちで、銚子市全体の事務機構と言いますか、機構の見直しに手を付けなければ片手落ちではないか、という意見を頂きました。これにつきましては、ここで議論するというよりは、来年になりましたら行革大綱、第7次になるのですかね、作りますので、その中に盛り込んでいくというつもりで議論をさせていただきたいと思っておりますので、非常に重要なご提案を頂いたという認識でおりますので、ここではとりあえずそういう形に

させていただくということで、この委員5名の共通認識にしたいと思いたすがよろしいでしょうか。

はい。それでは、大体、事業仕分けまで1時間弱でやってまいりました。今日の本題でございます市立病院について入ります前に、ここまでの委員の先生方のご意見、特に事業仕分け関係も含めまして、一度締めたいと思いたしますので、ご意見がありましたらお願いいたします。

土居委員

ご説明どうもありがとうございました。事業仕分けについては、来年度予算に向けての事業内容の改善というものがどういうところから可能なのかというところを、いろいろなアイディアが出てくると思いたますから、しかも市民判定人の方のご意見というのでも反映されるということですから、こういう市民の方々の声をいい形で汲み取りながら、それでいて、残念ながら何でも残していいと、何でも現状のままでいいという訳にも言えないという厳しい状況でもありますので、一つひとつ改善に向けていたしていただきたいというふうに思いたます。

それと、もう1つはですね、事業仕分けの結果をこの審議会では来々1月にご報告いただくということになると思いたます。その時に、もちろんですね、事業仕分けは歳出削減だけのためにやっている訳ではないのだけれども、やはり、さはされども財政状況厳しいので、どれくらいの削減額になったかという金額面もですね、ある程度は数字としてお示しいただかないと、来々の収支がどう改善できるかというところの規模感が見えてこないということもありますので、その辺りも併せてお示しいただきたいと思いたます。

伊永会長

コメントでよろしいですか。

土居委員

はい。

伊永会長

他に。

西田委員

事業仕分けに関して確認とお願いなのですが、事業仕分けの仕分け人の方のお名前を拝見して、非常に心強く、大変著名な方も数多くご参加いただいていて、非常に心強いなと感じました。仕分け人の皆さんは、手弁

当でご参加いただけると伺っておりますが、それはいかがでしょうか。

構想日本 伊藤氏

実費ですね。

西田委員

大変ありがたいです。ありがとうございます。この仕分け人の皆さんは初めてではなく、銚子の市民、それから職員の皆さんは事業仕分けをするのは初めてです。最も避けたい、避けなければいけないのは、その仕分けが終わった後に、もちろん数字のお話非常に大切なのですが、市民が職員に対して責める気持ちが出てしまう、逆に職員の方は市民を信じられなくなるというような、仕分け後の、例えば無力感が蔓延するようなことだけは絶対に避けなければいけない。今回、仕分け、初めての経験で、おそらく職員の方も不安に感じている方もいるでしょう。我々もこの審議会の中で意見を申し述べるのは非常に緊張もしますし、後で「ああ申し上げれば良かった。別の言葉を使えば良かった」ということは多々あります。うまく時間の中で（事業の内容等を）分かりやすく市民にというのは、当然求められる力ではありますが、うまく仕分け人の皆さんに引き出していただくような、市民の皆さんが納得できて、仕分けし易いように（判断し易いように）、また、職員の皆さんが説明し易いようにしていただきたいです。本来は、何か仮想の敵を作る訳ではなく、銚子市の未来を、「それは未来をつくれるか」という構想日本の事業仕分けのキャッチコピー、まさにその項を問うような仕分けであってほしいと思いますので、仕分け人の皆さんにはくれぐれもご助力いただけるように、よろしくお願いしたいと思います。

構想日本 伊藤氏

先週、市民判定人の皆さんと、ご担当の職員の方を対象にした研修をしたのですが、私も伺ったのですが、その中で、まさに西田委員おっしゃった話そのままで、何か対峙する訳ではなくて、できる限りぎくばらんな話をしてほしいということを申し上げます。どうしても職員の方が守りに入ると、こちら側もより深く聞かないと、繰り返し聞かなければ出てこないことになって、それは外から見ると叩いているという構図に見られかねない部分もありますので、そこは同じ目線でというふうに思っております。

もう1点、市民判定人、銚子市さんは今回初めてなので、もちろんこれ

はこの後の話ですが、これまで全部で40箇所くらいで市民判定人方式でや
ってきているのですが、終わった後のアンケート結果を見るとですね、7
割から8割くらいは、今までどちらかというと、行政というのは叩く対象
物だったものが、初めてそうではなくてこれだけ親身にやっているのがわ
かったという意見が出てきていますので、私はそういった期待もできるか
なと思っております。

西田委員

ありがとうございます。私も今回の行革に関する意見、市民の皆さんか
らの意見を見て、改めて市民判定人の方たちは必ずいい結果を導きくださ
ると思いますし、これは市民が行政に参加する大切な機会だと思ってお
りますので、市民参画の大切な機会として捉えたいと思います。よろしくお
願いします。

伊永会長

いい議論をしていただきました。私も、今日メンバーを初めて知りまし
た。私の知る限り、構想日本のベストメンバーです。最近、構想日本の仕
分け人も若返りが進んでおります。しかしながら、ここはベテランが随所
に入っておりまして、中には厳しい発言をされる方もいますが、そういう
方の発言も楽しめるようになれば、銚子市の職員の方も本物になっていく
のだろうなということで。対立軸にならないようにはコーディネーターの
方にうまくコントロールしていただけるとと思いますので、私も含めて可能
な限り、この仕分けに時間を割いて、のぞいてみていただければありがた
いと思います。ここにおられます議員の先生方、それから報道機関の
方々、それから本日の傍聴人の方々はもとより、市役所の職員の方々も大
変有益な場だと思います。市民の立場から見ますと、銚子市の予算の中
身、自分たちが世話になっている色々な政策の中身がこういうふうにして
決められて、こういうふうにしてお金が使われているんだということを知
る機会はおそらく初めてじゃないかと思いますので。議員の方々はこれま
でもずっと目にしてこられている訳ですが、市民の目線までそういうこと
を公開するというのが、この事業仕分けでもっとも大事な部分と私は理解
しておりますので、そういう機会を是非利用していただきたいということ
で、マスメディアの方からも、そういう論調で書いていただければありが
たいと思っております。

それでは、事業仕分けは意見が出つくしたようでございますので、いよ

いよ本日の集中審議と言いますか、より大事な銚子市立病院の現状について、これから時間を割いてご説明いただいて、議論させていただきたいと思います。ご説明、病院再生室の方でしょうか、よろしく願いいたします。

病院再生室長 (別紙資料により、市立病院の現状、決算見込み等について説明)

原田参与 (別紙資料により、同規模他病院との比較等について説明)

伊永会長 ありがとうございます。お二方にご説明いただきましたが、最初に1つだけ教えていただきたいのですが、室長に伺えばいいと思うのですが、今回、25年度だけの決算見込みが報告されたのですが、シンプルな話でいいのですが、22年度の決算はどうだったのか、23年度、24年度、この辺り簡単に教えていただけますでしょうか。決算の結果でいいです。どこかに出ていますか。出ていたら、そこを見ろと言っていただければいいのですが。

ちょうど今、指定管理5年のうちの4年目に入っておりますので、過去がどうだったのか、それを教えてください。

病院再生室長 それでは、明確にそれにあたるかどうかというものが手元にございせんが。

伊永会長 聞きたいのは、当初予算比較表の中で、病院会計の今年の見込みが9億9,000万円になっておりますよね。これに相当するような数字は、どうなっているのかわかりますかね。もう決算ができていますので、決算結果が知りたいです。

(「10月の会議の資料で」という声あり)

病院再生室長 おそらく第1回目の会議の資料かと思いますがけれども、その4ページ、「7月30日 財政運営方針等ヒアリング資料」ということで、病院事業会計繰出経費見込額ということで、直接病院の分というよりも、一般会計からの病院事業会計への繰出金の額、下から2番目の「指定管理委託料関連経

費」というのがございまして、平成22年度決算で3億4,000万円、23年度決算では8億6,000万円、24年度決算見込みでは9億3,000万円が支出されております。

伊永会長

わかりました。その数字が知りたかったのですが、率直に伺いますが、22年度にスタートするときは、一旦廃止した病院ですから大変ご苦勞もされたし、医師を連れてくるのも大変だったのではないかとすることは、十分、推測できます。でも、その次の年ぐらいからは徐々に軌道に乗ってきて、23年度が8億6,000万円の売上げですね、病院の決算の収入、それからその次の年が9億3,000万円、今年が見込みですが9億9,000万円ということは、これはもう頭打ちでもう伸びないということに統計的には見えるのですが、この辺りはどう見ておられますか。つまり、たぶん銚子市内の中の市立病院に来てくださる見込み患者としては、もう飽和状態になっていて、これ以上は伸びない、伸ばせない・・・。

(「それは赤字額・・・」という声あり)

伊永会長

今、赤字のことではなくて、聞いているのは病院の売上げについてなのですが、どこを見ればよろしいですか。これはグラフがあったら非常にわかりやすいのだと思うのですが、最初の年度は仕方ない。2年目、3年目、4年目と、赤字額が減っていない。私、理系なものですから、(グラフがあれば)そういう所に目が行ってしまうのですが。

土居委員

確かに患者数も重要なのですがけれども、銚子市なら銚子市ないしは、銚子市の周りの二次医療圏の中で、どういう患者の分布になっているかということの中で、この市立病院がどういう医療を担ってきたかということとの対応関係だと思うのです。それながら、銚子市内にもいくつか病院、診療所はある訳ですけど、そこの役割分担とか、そういうものがあって初めて、どういう入院の体制を整えるかだとか、そういうのを考えるというのは、別に、私、経済学者ですがけれども、医療のことについてちょっとぐらい勉強すればそれぐらいは喋れる訳で、専門のお医者さんはもっと考えておられるのではないかと思うのですがけれども、その辺りが先程の平成25年度の決算見込の話の中では、外科の病床を増やしたけれど、必ずしもそ

のバックアップがうまくいっていなくて見込み違えたという話が出てくるというくらいなものですから、いささかミスマッチがあるなという感じがします。

伊永会長 土居先生のおっしゃるとおりなのですが、ミスマッチと思っていますが、実際には、もうかなり飽和状態で、銚子市には200床の病院も別にありますし、十分な医療機関が整っていますので、その中から市立病院に魅力を感じて来てくれる患者さんの候補者は、ある程度限定されていると。その結果がこの数字にきちっと表れていて、かなり努力をされてこられても患者の奪い合いになるだけということはないのでしょうかということを知っているのです。

加瀬副会長 銚子市の中で、医療に携わっている診療所とか入院施設、病院と言われている所は、この辺のマーケットというのですか、診療圏の中で少ないのか多いのか、この辺についてはどのような見解を持っていますか。

病院対策監 今お話のありました件なのですけれども、平成24年度から市立病院の常勤医の数が計画ほど伸びていない状況でありまして、常勤医の数が予定どおり伸びていれば、患者数についても伸びていたのかもしれないというようなことは考えております。

伊永会長 そこが大事なところでして、患者数が伸びたという場合には、他の銚子市内の病院から移動しているだけで、トータルとしてはそんなに変わらない訳ですから、二次医療圏の中の利用者の数としては、かなり限界といえますか、いいところまできているように統計的には見えてしまうのですが。そうだと仮にすれば、この金額に見合った規模にしていかなければいけない訳です。そこを今申し上げようとしている訳です。

土居委員 確かに、銚子市がそれを考えろと言われても、考える機能を持っていないというか、考えなくてもいいと言ったら言い過ぎですが、実は、これは医療計画を立てる県が考える事なのです。医療計画は県が立てていて、その医療計画の二次医療圏というところで、どのような医療体制を整えるべきかというようなことは、実は県が考えている。県が主体性を持って考え

ているのですが、県は県で強制力がないものですから、ここに病院を建てるですとか、ここは数が多いから減らせとかということまではさすがに言えない。そうすると、個々の自由開業のもとで、色々、病院や診療所は開設できますので、そうすると、ネゴシエーションというか、県なり全体の二次医療圏の中での役割分担とかを自発的に考えて、そこで銚子市が銚子市なりに市立病院の位置づけをある程度主体性を持って決めて、その機能がより良く発揮できるように病院が経営されるという順番でないと、とにかく、この診療科でお医者さんがほしいから、是非お医者さんに来てくださいと言って一生懸命呼んでくるのはいいのだけれども、常勤の方がいらっしゃらなかったから収支が合わなくなったというのは、若干、本末転倒なところがあって、本当は、市立病院がどういう役割を果たすべきかというところがあって、もし、その役割を理想的に果たせるならば、これぐらいの人員が必要で、その人員が確保できたならどれぐらいの収支になるかというような順番が本当はほしいところなのですが、さすがに銚子市立病院の事は経緯が経緯ですから、そこまで私が申し上げたようなほどの理想的なことにはいきなりは無理だとは思うのですけれども、今後の事を考える上では、なりたい病院というよりは、どういう病院になるのが銚子市を取り巻く環境の中で望まれているのかという、なりたい病院であるというよりは、なれる病院であるという、そういうところのバランスが必要だと思います。

加瀬副会長

銚子市の置かれている状況の中で、最大の問題は、病院の問題と大学に対する補助金の問題、この２点が、一般市民の中では一番、銚子市がこうなった理由の最大の問題じゃないかと思っていますと思うのです。

銚子市が、一旦、公設公営であった病院を休止した。その時には、平成17年の３月と、これが銚子市立総合病院の経営診断報告書が出た。そして、なおかつ平成20年の３月24日に、休止になるちょっと前なのですが、銚子市立総合病院の今後の方向性に関する調査兼報告書ということで、今日、原田参与がご説明いただいたものと似たようなもっと分厚いものが出ているのですね。この二次診療圏のベット数の問題を踏まえて、実はどうすべきかということについて問題点が非常にきちんと書かれています。今日、ここで同じ話が、平成20年から５年が経ちましたが、５年経過してまた同じ問題になっていて、答弁が同じなのです。これでいいのですかとい

うことを、検討会議がこれから開かれるということなので、しっかりと前の時の経緯と今日の提言を踏まえた上で検討していただかないと、乏しい財源の中で銚子市民の負担が非常に、患者さんの問題も含めて、本来歳出として行わなければならないものまで制限されますので、しっかりと検討いただきたいと思います。今日の前田参与の説明は、非常にコンパクトにまとまっていて、わかりやすく、（病院の）課題が多かった。前の時の資料で何て言っていたかといいますと、お医者さんの数は減っていく、その中で最大の問題は何か。昼も診療し、なおかつ夜も診療をやる。眠る間がなくなってしまうのです。お医者さんが。ドクターの数が。こういう状況の中で、どう対応していくのかという課題への対策が見つけられなかった。ということもあると思いますので、この辺も踏まえて、検討会議の中でしっかりと議論していただきたいなと思います。

銚子市の行政が非常に厳しい状況になっている最大の理由は、この病院の問題と大学に対する補助金の負担が重くのしかかっていることだと思いますので、よろしくお願いします。

市長

加瀬委員ありがとうございます。まさに、2月にスタートいたします「銚子市立病院の方向性を検討する委員会」でも、実際、この二次診療圏をはじめ、この医療圏の中でどのようなニーズがあるのか、あるいは必要とされる医療があるのかということを検証しながら、同時に、現実の医師不足の現状の中で、どのような医療を提供できるのかを、求められる医療と提供できる医療、そこの接点を探っていくということが最大のポイントになると思っています。それをうまくマッチングさせるということが市立病院、公立病院としての存在理由であり役割でありますので、ご意見を踏まえて十分に検討していきたいと思っています。

加瀬副会長

今回の病院の運営が、指定管理による民間だと言われていますね。公設民営だと。公設公営の時には、銚子市の監査が定期的に入った。だけど、公設民営になったが故に、指定管理によって対応しているので、財政援助団体監査としての機能でしかないから、行政側が見る目が、いわゆる公の支配というのですかね、それがなくなってしまった。ですから、銚子市の財政の影響が大きい団体なので、少なくともその辺のところは監査機能をしっかりと果たしていただきたいと切に願う所ですのでよろしくお願いします。

ます。

構想日本 伊藤氏 今、加瀬委員がおっしゃった関連で、今、指定管理で出している財団法人への出資は何%ぐらいですか。

加瀬副会長 出資じゃないのですね。出えん。寄附なのです。

市長 医療法人財団ですので3,200万円の出えん金、全てが銚子市の寄付です。

構想日本 伊藤氏 であれば間違いなく、指定管理である民間団体ではあるけれども、出えん金を出しているという意味での市としてのガバナンスを利かせることは必要だということになります。

西田委員 病院の問題は、行財政改革としても非常に重い、大切な案件であることは皆さんが確認済だと思うのです。ただ、これをどのように（進めるか）、市長は「あり方検討委員会で」とおっしゃったのですが、持って行き方も行財政改革にとっては非常に重い課題になるかと思えます。

先程、まだ閉会していませんけれども、病院の補正予算、財源3,000万円ですか、補正を専決処分で組まれたというように説明がありました。3,000万円というと、一番初めに、収税するところで、各課の課長さんが、（滞納金額）3,000万円のうち目標2,000万円だということで、今、全ての課長さんが外を回られて2,000万円の収入を上げようとしている。それとほぼ同額の金額が今回の専決で補正で組まれている。行財政改革の観点から見て、実は持って行き方も重い（重要）のだということをもう一度確認をしたい、させていただきたいというように思います。ロードマップのようなものはできていますか。どのような期間でお尻を決めて、どのようにして、検討員会でどのように進めていこうかというようなロードマップがあればお答えいただければと思います。

病院再生室長 先程市長から説明しましたとおりに、まず第1回の会議を2月に予定しております。それから、4月、5月、6月、7月程度で会議を開催させていただきまして、できれば夏頃には答申をいただけるように事務を進めた

いなと考えております。

西田委員

その答申で想定されるものというのは、何が答申として出てくることを想定していますか。病院のあり方ですか、その辺りを聞かせていただければと思います。

病院再生室長

先程市長が申しましたとおりに、求められている病院の姿、提供できる医療の姿のマッチングというものが根本になるのかなというふうに思います。

吉田委員

この病院の問題については、一人の市民として捉えたときに、ここ数年の、前銚子市立総合病院の休止から、リコールがあり、市長選があり、それで新しい病院ができたという流れの中で、全て、市民がその都度選択してきたことなのです。それが、民意の揺れ動きといいますか、その中で、本当にマーケットとして必要とされているかどうかということで、私も一人の市民として、新しく病院ができたときに、一旦休止して、それぞれの民間病院に移った患者さんたちが、また、お医者さんも市立病院を退職して、小児科医でも内科医でも新しく開業されたのも傾きが一緒です。そういうところにみんな分散した中で、またそれを新たに元に戻すということは果たして可能なのかというふうに考えていた中で、こういう病院ができて、こういう現状だということで、本当に一人の市民として非常に複雑な思いをしております。この際、病院がそもそも、要するに、内科医が増えれば赤字が解消されるのかということ以前に、病院が本当に市民に必要とされているのかというところまで真摯に検討していただきたいと思います。

伊永会長

ありがとうございました。土居委員どうぞ。

土居委員

いくつか初歩的な質問を、今後の病院のあり方を考える上で非常に重要なポイントになるのではないかと思いますので質問させていただきたいと思います。

まず、決算見込の資料で、注釈に、前年度未補てん分665万7,000円というのが入っていますが、これは、どういう形で処理されることを想定して

いるのか、つまり、今年度の繰入金も、この未補てん分を考慮した上で確定させるということなのか、それとも、未補てん分は未補てん分で、とりあえず再生機構に付けておいたまま繰り延べるということなのかどうかということを一問一答でお伺いしたいと思います。

病院再生室長 本年度補てんする、支払ったということでございます。

土居委員 今年支払ったというのは、その分は繰入金の額としてカウントしているという意味ですか。

病院再生室長 はい、そういう意味です。

土居委員 そうするとですね、この決算見込の1ページ目の表を見るのは、いかにも奇妙になっているというのがわかる訳ですが、つまり、会計上、変なことが起こっているという訳ではないのですが、会計の立て方がそういう立て方になっているが故に、どうしても事後的に赤字補てんという請求書が市役所に回ってくるというような構図に、元々そういうふうに契約してしまったから、今さら急には変えられないということかもしれませんが、そういうのが出てくる。つまり、病院会計は収益が立っている、だけど、本部会計はもちろん自分で稼いでいないので、ない。だから、そこで掛かった費用は全部、市の会計からお金をつぎ込まなければいけないということになっていますよということ。それから、さらに、この欄外に未補てん分までもがあるということなので、それらは全部請求書がこちらに回ってくると。そういうお金の流れがいみじくもこの表から伺えて、もちろん、そうしなければならないということでは必ずしもない訳なので、市の本体、一般会計と再生機構との間でのお金のやり取りを、どういう形で制度設計していくかというところには、私は今日は結論みたいなことは言いませんけれども、機会があれば再設計し直さなければいけない、こういうのは専門用語で「ソフトな予算制約」「予算制約が緩む」と、そういうことなのですが、そういうのが起こっているというものになりがちな仕組みになっているということまで指摘をさせていただくことにしたいと思います。

それから、もう1つはですね、本部会計で計上されている役員報酬、この役員報酬が、先程の原田参与のご説明にもありましたように、他の病院

と比較する上で、どこにつければいいかがわからなかったからこれは除いてということなのですが、A 3（資料）の方の病院会計のところは役員報酬がゼロですけれども、本部会計のところで役員報酬を立てていて、そこは見合いの収入はないので、2枚目のA 4の紙は、支出だけが書かれていると。そういう会計の立て方としたからそうなっているということで、インチキがある訳では全然ない訳ですけれども、そういう立て方になっているということなので、果たして役員報酬の妥当性とかそういうようなものが他の病院と比較しにくいような感じになっているところは非常に気になっているところで、役員報酬の妥当性というのは何らかの形で然るべき検証が必要で、かつ、はっきり言えば、経営が芳しくないのに、どしどし役員報酬を出していいのかという疑問も浮かんでくると、こういうことが1つ。

最後に、傍聴されている方も疑問に感じておられると思うので私がそうふうに見たのでそれが正しいかどうか確認させていただきたいのですが、原田参与がご説明くださった資料の6ページに先程ご指摘あったように、銚子市立病院は、当期純利益が黒字で出ている。2,400万円出ていることに対して、決算見込の最後の3ページ目のA 3の紙の一番下の当期純利益は赤字になっているということですね。これは、一見するとギャップを感じるのだけれども、先程来、私が言っている訳ですけれども、かつ、原田参与もおっしゃいましたけど、市からの繰入れがあつての黒字というのと、A 3の方は、まだ市からの繰入れはこの表には載っていないから赤字になっているということの違いというのが、きちっと注意を喚起しないと、なんで赤字で黒字でと思われるかもしれないので。私はそう見たのですがよろしいですか。

伊永会長

引き取らせていただきますが、最終的には銚子市民の民意が大きく影響する病院事業だと思います。

それで、最後に1つ質問させていただきたいのですが、銚子市民はこの病院のためにお金を出してもいいというような気持ちは、どうでしょう、吉田委員も同じようなことを感じておられるのではないかと思いますのですが、例えば、今からでも遅くないですから、市民の方に1億円ほど皆さんで寄付してくださいと言った場合に、銚子市の方でお願いしたりできますか。具体的には、例えば、1万人の方に1万円ずつというようなことでい

いと思うのですが。そういう民意の問い方があるかどうかよくわかりませんが、私も病院のことは全くの素人で用語もよくわからないのですが、そういう問いかけ方、やっぱり、銚子市立病院をどうしても維持したいという民意に基づいて、一度廃止した病院を立ち上げている訳ですから、それに対して銚子市民が、今、どう本当に必要としているのかというところをどうやって問うかということなのですが。どなたかお答えいただけますか。

原田 参与

その前にですね、先程、土居委員の方からご質問のあった件ですが、最初に配られた資料の病院会計当初予算の6ページにですね、いみじくも書いてあることが非常に印象的なのですが、病院会計予算5億9,200万円の赤字と書いて、一番上に「銚子市立病院では以下の収支を見込んでおり、赤字に見合う金額を補助金として受け、収入計上する」と、こういう表現をしている訳ですよ。これを私が来た時に初めて見てびっくりしたのです。つまり、赤字の部分は全て市から補てんをします。先程、土居委員が言われたように、当初からそういう約束だったということできっと始めたのだとは思いますが、外から来た私としては非常に異常な約束事というふうにお受けしました。ですから、本来、通常の会計をやっていればですね、決算見込というのは、最初に私が説明した中にあるように、最後まで当期純利益までを含めて大体普通は書く訳ですよ。ところが、この病院から出てきた中身は、経常収支が赤字止まりで、その下の収入の金額については、イコール、その金額が入ってきてゼロにすると、おそらくそういう約束事でされていたと思うのです。であればここはゼロなのです、決算は、本来。それは色々な事情があったと思いますが、市側と病院側で。最後に申し上げたいのは、こういう形で、まだ10数日しか来ておりませんが、見ている中で、先程も加瀬委員、土居委員、伊藤さんが言われたように、やはり、市と病院が、市立病院というものに対して、市民の皆さんのためにも本当に真剣になってきちっとしなければいけない。市の責任としては、きちんと病院に対して見ていく、つまりガバナンスですね、きちっと管理監督をやっていくべきだと。病院側も、それに対して真摯に自分たちの考えを入れながら受け止めて、市民の病院というものを運営している訳ですから。お金の問題もありますけれども、きちっとやっていくべきだと思います。これを市長にも宣言してもらえたらと思います。そん

なふうに、私は受け止めております。

伊永会長

当審議会としても全く同じであります。また一言、後で触れます。

市長

伊永会長からお尋ねのありました、市民がお金を出してもいいのか、その覚悟はあるのかというお尋ねでしたけれども、確かに旧市立総合病院の時代には、病室の改装、カーテンなどの改装のために多額のお金を寄付してくれたという方がございました。また、現在の市立病院につきましても、クラゲの水槽を、癒されるようにという思いで、寄附してくれた方がおりまして、それなりに愛着を持っておりますし、何らかの形で市立病院に貢献をしたいという市民の意識はあると思います。そういう意識を確認するためということもありますし、市民が本当に市立病院を必要としているのか、必要としているとすればどのようなことを必要としているのか、住民の皆さんと意見を交換したいということで、1月15日から2月中旬にかけて、各中学校区ごとに市立病院の方向性についての地区懇談会というものを開催いたします。その中で、現在の市立病院の状況を説明するとともに、何を求めているのかということ率直に伺ってまいりたいと思います。その中で、もし負担を求められた場合には、負担をする覚悟はあるのかということも投げかけさせていただきたいと思います。

伊永会長

ありがとうございました。議論する時間は短かったのですが、だいたい意見は集約されたように思います。最後に、この審議会としてまとめさせていただくなら、病院経営の件ですが、今後は、市が関与するというレベルでなくて、管理監督するところへ協定を変更していただくようなことが必要なのではないか。以前の協定は既に結ばれているものなのですが、今回、議会を通じて病院から補正予算の要求がある分も銚子市として繰り出すならば、協定の変更も同時に求めていただきたい。25年度以降の財政支出は、そういう前提がなければ持続性がもうないということで、市当局、市長はじめ、是非そういう方向で病院と向かい合って、市民のためにご努力いただきたいというふうに審議会としては結論させていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

加瀬副会長	<p>1点だけお願いがあるのですが、地元には医師会があります。医師会との会合を少なくとも年1度くらいはもたれていただきたいとお願いしたい。たぶん一度もやられていないのではないかと思いますのですね。地元医師会の意見とか、患者さんたちに向き合っているお医者さんとの会合がまるでなされていない。これでいいのかという問題がありますので、公立病院のあり方と民間病院のあり方、民間診療所のあり方ということで考えたときには、それをお願いしたいなと思いますのでよろしくお願いします。</p>
構想日本 伊藤氏	<p>会長おっしゃったことで1点確認なのですが、協定と言っている部分は、例えばこの収支の赤字に見合う分は補助金として受け入れられる、これは協定で書かれていますか。というのは、先程の指定管理で出していることとか、出せん金100%市が出していることをもって、本来であれば管理監督というものはそもそもしなくてはだめなのですよ。厳しい言葉で言えば、やるべきことをやってなかったと思うのですが、そこと、協定で書かれていることの関係性というのを私ちょっとわかっていなかったのを確認したいのですけど、どうなのでしょう。</p>
市長	<p>管理監督と協定との関係ということでしたけど、監督につきましては、地方自治法の第244条ですか、それから基本協定の第37条の中で、今回結んでですね、必要な調査を行うというようなこともできるというふうに書かれておりまして、ただ、今まではそれを行ってこなかったというような実態だったというふうに思っております。やるべきことをやってこなかったという、今、伊藤さんからのご指摘もいただきましたので、まずその点も含めて、しっかりと管理監督機能を果たしていかなければいけないというふうに自覚をしております。</p>
加瀬副会長	<p>赤字を補てんするというような協定は、もしあるとするなら、とんでもない話じゃないかと思うのです。赤字を払いますなんて、そういう協定書というのは通常考えられないと思うのですが、いかがですか。</p>
財政課長	<p>指定管理の基本協定書の方に、補助金という項目で、医業費用を医業収益で賄えない場合には、甲は乙に対し予算の範囲内で補助金を交付するという協定の項目になっております。</p>

構想日本 伊藤氏

ということは、全額という決まりではないですね。

市長

ただこれまでの解釈としては、債務負担行為の上限額を定めない、それを議会で議決したということがございまして、イコール赤字の上限額を定めない補てんなのだという解釈でずっときたという経過はございます。

伊永会長

まだ完全燃焼とはいかないのですが、時間もまいりましたので、本日の銚子市立病院についての議論は、一旦終了させていただきたいと思えます。なお、本日の会議終了後に、この病院について、当審議会としてどのように意見をまとめるのか、さらに、突っ込んだ議論が必要でございますので、この後、会議を非公開にさせていただきたいと思えます。その場では個人の名前ですとか公開できない部分がございますので、議員の皆様ですとか、報道機関の皆様には大変申し訳ないのですが、傍聴人の皆様に対しても、そういう方向で、ご理解いただきたいと思います。なお、どういう結果になったかについては、次回の審議会で結果だけご報告させていただきます。

それでは、最後に何かご意見ございますか。それでは、長時間の議論、ありがとうございました。以上で、本日の議事は終了いたします。議事運営につきまして、ご協力ありがとうございました。

(事務局から次回日程等について説明)